

## 論文審査の結果の要旨および担当者

|      |     |   |   |
|------|-----|---|---|
| 報告番号 | ※ 甲 | 第 | 号 |
|------|-----|---|---|

氏名 片山 寛人

論文題目

Social insecurity in relation to orbitofrontal activity in patients with eating disorders : a near-infrared spectroscopy study

(摂食障害患者における前頭葉眼窩皮質機能と社会的不安定性の関連 : 近赤外線スペクトロスコピー研究)

論文審査担当者 名古屋大学教授

主査委員 小川 豊昭



名古屋大学教授

委員 本城秀次



名古屋大学教授

委員 長崎和也



名古屋大学教授

指導教授

元吉義之



## 論文審査の結果の要旨

摂食障害患者の前頭葉機能には異常があること、摂食障害の対人関係における不安定性が摂食障害の精神病理に強く関連していることはそれぞれ報告されているが、摂食障害患者の前頭葉と社会的不安定性の関連に直接焦点を当てた神経画像研究はない。また、極低体重の摂食障害患者と健常者を比較した研究は少ない。本研究では、自然な環境での計測が可能な近赤外線スペクトロスコピ-を用いて、20人の摂食障害患者と31人の健常被験者に言語流暢性課題を施行し、前頭葉の活性変化を調査した。また、Eating Disorder Inventory-2を用いて前頭葉の活性変化と臨床症状との関連を調査した。

摂食障害患者群と健常被験者群の前頭葉の活性変化パターンは大きく異なる。摂食障害患者群では言語流暢性課題中における前頭葉眼窩皮質の活性は健常被験者群に比べて有意に小さかった。摂食障害患者群では前頭葉眼窩皮質の活性変化と社会的不安定性に正の相関が、健常被験者群では負の相関が見られた。前頭葉眼窩皮質の活性が高い健常被験者群は適応的に行動し社会的孤立を生じず、前頭葉眼窩皮質の機能が低い摂食障害患者群では社会的孤立の自覚が乏しくなると考えられた。

1. 摂食障害患者の内側前頭前野における活性減少と心の理論の欠損が関連するとの報告は、摂食障害患者の一部に自閉症スペクトラム障害を認めることとの関与が予想され、本研究での摂食障害患者群における社会的孤立の自覚の乏しさも自閉症スペクトラム障害の関与を念頭におく必要がある。
2. 前頭葉眼窩皮質の機能低下が、摂食障害患者で見られる splitting の機制、否認の機制の神経基盤である可能性が示唆された。
3. 前頭葉眼窩皮質は辺縁系や大脳基底核と双方向に密な神経連絡を行っており、今後前頭葉眼窩皮質機能の低下と他部位の脳機能異常の関連についての証左が明らかになることが望まれる。

本研究は、社会的不安定性における摂食障害の精神病理と神経基盤の関連についての重要な知見を提供した。

以上の理由により、本研究は博士（医学）の学位を授与するに相応しい価値を有するものと評価した。

別紙2

試験の結果の要旨および担当者

|       |                                |                        |
|-------|--------------------------------|------------------------|
| 報告番号  | ※甲第 号                          | 氏名 片山 寛人               |
| 試験担当者 | 主査<br>い、い、豊昭<br>印<br>指導教授<br>印 | 本城秀次<br>印<br>長嶋ねこ<br>印 |

(試験の結果の要旨)

主論文についてその内容を詳細に検討し、次の問題について試験を実施した。

1. 摂食障害患者群と自閉症スペクトラム患者群との重なりについて
2. 前頭葉眼窩皮質の機能低下と、摂食障害患者で見られる splitting の機制、否認の機制の関連について
3. 前頭葉眼窩皮質における辺縁系や大脳基底核との神経連絡について

以上の試験の結果、本人は深い学識と判断力ならびに考察力を有するとともに、精神医学一般における知識も十分具備していることを認め、学位審査委員会議の上、合格と判断した。